

2014年7月18日

愛知県労働局長 殿
愛知県最低賃金審議会 委員 各位

全国福祉保育労働組合東海地方本部
執行委員長 安藤光枝



平成26年度地域別最低賃金額改定にむけた意見書

労働者の労働条件の向上と国民経済の健全な発展に向け、ご尽力いただいている委員の皆様
に敬意を表します。今年度の地域別最低賃金の改定にかかわる目安のあり方について、全国福
祉保育労働組合東海地方本部としての意見を述べます。

厚生労働省の「平成25年賃金構造基本統計調査」によれば、保育士の所定内給与は月額207.4
千円、平均勤続年数は7.6年、福祉施設介護職員は205.7千円（同5.5年）、ホームヘルパーは
204.3千円（同5.6年）です。賃金が全労働者平均の295.7千円の7割という低い水準が要因
となり、福祉現場では募集をかけても応募がなく慢性的な人手不足の状態です。低賃金に加え
て長時間・超過密労働が続き、将来への不安を抱いての退職が後を絶たず、労働者の定着も困
難な状況が、平均勤続年数で全労働者平均11.9年を大きく下回っていることに現れています。

特別養護老人ホームの待機者は52万人を超え、保育所の待機児童も年度途中では毎年4万
人を超えています。人材不足のために受け入れが困難な状況です。特に、東日本大震災から
の復旧が進んでいない東北では、地元の賃金水準より高い首都圏からの募集で人材が流出し、
正規雇用であっても人材確保が困難な状況になっています。

憲法25条が定めている国民の生存権を保障するためには、福祉の専門職としての人材が確
保され職場に定着することが必要です。専門職として働き続けていくことで、コミュニケーシ
ョンを通して一人ひとりの状況に合った福祉を实践する経験が蓄積されていき、利用者処遇の
質が向上していきます。今、福祉労働者の賃金水準を大幅に改善して、人材の確保と定着を図
ることは喫緊の課題となっています。

福祉労働者の処遇改善は、高齢者介護の当事者団体や待機児童解消と認可保育所増設を求め
る各地の保護者グループも国に要望しています。こうした声を受けて、186国会では「介護・
障害福祉従事者の人材確保のための介護・障害福祉従事者の処遇改善に関する法律」が可決・
成立し、具体的な賃金引き上げ水準が審議会などで検討されていきます。

福祉労働者全体の賃金水準を引き上げるためにも、最低賃金の大幅な引き上げが必要です。
最低賃金引き上げは政府の「骨太方針」「成長戦略」でも強調され、政府の姿勢が昨年と同じ
であることが労働基準局長からも表明されています。今年度の中央最低賃金審議会・目安改定審
議においては、2009年に政労使で確認した「早期の全国最低800円、2020年までに全国平均
1000円」の実現に向けて、地域間格差の是正を図り、昨年を大きく上回る目安が出されるべ
きと考えます。

審議にあたっては、添付した全国福祉保育労働組合東海地方本部組合員の最賃体験の声を反映
して頂き、最低賃金の大幅な引き上げをお願いいたします。

以上

最低賃金体験レポート

※愛知県労働組合総連合の呼びかけで、2014年2月の1ヶ月間にとりくまれた最低賃金生活体験（1ヶ月＝780円×8時間×22日＝13万7280円）にチャレンジした、福祉保育労東海地方本部の組合員2人の体験レポートです。

今回初めての最賃体験をさせてもらいました。今まで家計簿が続いたことがなかったので、これを機に自分のお金の使い道を把握したいなと思いました。また最賃体験ということで、自分の中で『節約月間』と決めて取り組むことにしました。仕事帰りについつい寄ってしまうコンビニや週末の飲み会の頻度を少なくしてみたり自分なりに節約できたかなと思った月でした。しかしいざ振り返ってみると最賃での生活はできず、大きくはみ出してしまいました！『節約する！』と決めて、やりたいこともいくつか我慢していても最賃では難しかったです。私は実家で暮らしているのですが、家賃や光熱費、食費(外食以外)は、家にいくらか入れている以外はかかりません。それでも最賃では自分のしたい！と思うことも難しいことが、今回の体験で感じさせてもらいました！そんなに贅沢は言いませんが、自分のしたいことをして、自分らしく生活していく当たり前のことができるだけの賃金を要求していきたいと思いました！

東海地方本部めいほく分会小倉

最賃1000円でもギリギリ

提示された額は112,120円から家賃47,000円を差し引いた65,120円。「これで1ヶ月生活しろって！できる訳ないじゃん！」と思って始めた最賃生活。3日目に毎月の固定経費の支払を済ませると残高わずか25,833円。まだ25日も残っているのに…気分が悪くなり意欲も気力もうせて寝てしまったが、実生活だったら不安でとても寝れやしないだろう。食材は友人たちのカンパに助けられ、一番安いイオン系列店の閉店間際の値下げ商品を買って節約し、集会の後のビールはジンジャーで我慢して、飲み会も外食もできるだけ断り、映画は1回だけ交通費のかからない近所の映画館で観て、喫茶店で飲んでいたコーヒーをマックの100円コーヒーに変えて…と頑張っても節約できないものがある。医療費は眼科と整形外科で7150円の出費。結婚祝いや香典もいった。ガソリン代に携帯料金、PC関連の費用…11日目にして赤字に転落。結果、41434円の赤字で最賃生活は終わりました。

食べたいもの、買いたいもの、やりたい事をガマンして、遊びの誘いも断って節約しても4万円の赤字。車やPC、スマホなどは持たないとしても25000円程度赤字となる。結局、今の最賃で暮らそうとすれば、社会との関りも持たず、友人・親戚との付き合いもやめ、趣味も娯楽もあきらめ、働いているとき意外は家でじ〜っとしているしかない。だからみんな残業やって、パートのかけ持ちしてなんとか暮らしている。これが、経済大国・日本でフルタイムで働いた結果、得られる賃金とは、まったくふざけている！！

最賃を1000円に上げて38,720円増えるだけなのでギリギリでとこ。最賃1200円でプラス73,920円。このくらいは最低必要だと思うのだが、いかがでしょうか？

東海地方本部書記局分会近藤順子